

2017年5月 今月のトピック

『2016年度投信ランキング』

アナリスト 和田 年弘

2017年5月17日作成

2016年度のデータが出そろったところで、投信の運用成績ランキングを確認しました。1年間の収益率だけでなく、様々な視点からアプローチしていますので、皆さんのイメージとは少し異なる意外な発見があるかもしれません。

『ポイント』

- 2016年度1年間の収益率トップは、リスクは高いもののバランスのとれた「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」でした。2位以下には新興国関連のファンドが並びました。
- 直近3年で見ると中国株式ファンドと国内の中小型成長株ファンドがベストテンを二分し、直近5年間ではベストテンすべてを国内の中小型成長株ファンドが占めました。中国株式ファンドはすべてハイリスク・ハイリターンでしたが、国内の中小型成長株ファンドの中には、バランスの取れたファンドが散見されます。
- カテゴリ別（直近5年）では1位がJ-REIT、2位が国内株式、3位が外国株式となりました。いずれのカテゴリも収益率は高いものの、ドローダウンを含めリスクは高めです。その中で、収益率は上位1/4に届かなかったものの、リスク、安定性等各項目で安定して高得点をあげたのが複合資産でした。

■ファンドランキング:2016年度(1)

2016年度の収益率ベストテンは以下のファンドです。

計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信等を除いた 2,543本で比較しています。

ファンド名	運用会社	カテゴリ	残高 (百万円)	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドロウダウン (注1)	安定性 (注2)
JPMジャパン・テクノロジー・ファンド	JPモルガン	国内株式	2,866	85.62%	16.96%	5.05	-2.52%	92%
フォルティス中国環境関連株式投信	BNPパリバ	エマージング株式	2,349	72.93%	59.85%	1.22	-3.90%	58%
野村新中国株投資	野村	エマージング株式	4,650	69.65%	45.45%	1.53	-5.89%	75%
ダイワ日本株戦略 α <ブラジル・リアル> (毎月分配型)	大和	国内株式	11,539	49.57%	16.15%	3.07	-4.58%	75%
ブラジル公社債ファンド	三井住友トラスト	エマージング債券	5,876	48.50%	13.17%	3.68	-1.72%	75%
野村日本ブランド株投資(ブラジルリアルコース)年2回決算型	野村	国内株式	12,418	45.69%	16.72%	2.73	-5.27%	67%
野村通貨選択日本株投信(ブラジルリアル)毎月分配型	野村	国内株式	4,383	45.33%	19.70%	2.30	-5.27%	67%
野村日本ブランド株投資(ブラジルリアルコース)毎月分配型	野村	国内株式	116,807	45.08%	16.62%	2.71	-5.26%	67%
大和住銀日本小型株ファンド	大和住銀	国内株式	14,276	44.87%	10.24%	4.38	-3.64%	83%
三菱UFJ新興国高利回り社債F<ブラジルリアル> (毎月分配型)	三菱UFJ国際	ハイイールド債券	59,059	44.02%	12.43%	3.54	-1.97%	75%

(注1) 下落幅が最も大きかった月の収益率。

(注2) 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

ベストテンに国内株式型が6本入っていますが、うち4本は通貨選択型のブラジルリアル・ヘッジのものです。他のカテゴリ2本と合わせ半分以上のファンドについて、ブラジルリアル/円の為替収益が大きく貢献したようです。また中国株に投資するファンドも2本入っています。

エマージング市場に投資するファンドがベストテンのほとんどを占める中で、「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」が群を抜いた収益率となりました。2位、3位がハイリターンではあるもののリスクが突出して高い中国株式ファンドだったのに対して、当ファンドは相対的に低いリスクで高いリターンをあげており、その結果、単位リスクに対してどれだけのリターンをあげたかをみる「効率性」が突出した値となっています。同期間のTOPIX(配当込)の収益率が6.87%だったことを考えると、絶対リターンの水準だけでなく、市場対比での相対的なパフォーマンスも良好であったと言えます。

■ファンドランキング:2016年度(2)

パフォーマンスだけでランキングすると、ハイリスク・ハイリターンの方が多い傾向にあります。ここでは、以下の5項目から、バランスの取れたファンドかどうかを確認します。

収益率: 月次の収益率を足し合わせて年率換算しました。期末/期初で算出される値とは若干異なります。

リスク: 月次収益率の標準偏差(年率)で、一般的なリスク指標です。

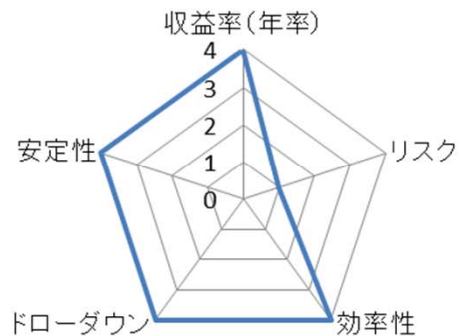
効率性: 収益率/リスクで算出。単位当たりのリスクでどれだけ効率的に収益を上げたかを示します。

ドローダウン: 下落幅が最も大きかった月の収益率です。

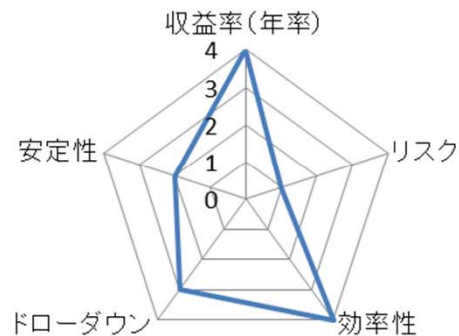
安定性: 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合を示し、高いほど安定的と言えます。

以下のレーダーチャートは、上記5項目について四分位を示したものです。「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」、中国株投信から1本、ブラジルリアルヘッジの投信から1本、合計3本を比較しました。比較対象がカテゴリに関係なく全ファンドであるため、これら3ファンドのリスクは下位1/4(最低クラス)となっていますが、この3本の中では「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」が最もバランスがとれていると言えます。

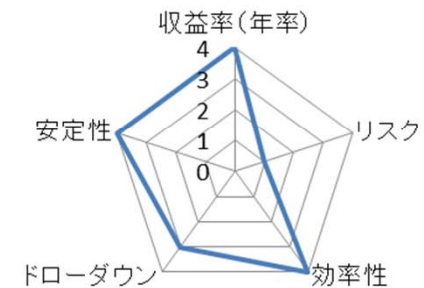
JPMジャパン・テクノロジー・ファンド



フォルティス中国環境関連株式投信



ダイワ日本株戦略α<ブラジル・リアル>(毎月分配型)



■ファンドランキング:中期(直近3年間)(1)

— 2016年度のみでは、直近1年間の状況しかわかりませんので、中期的な視点から、直近3年間を確認しましょう。収益率ベストテンは以下のファンドです。

計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信等を除いた 2,391本で比較しています。

ファンド名	運用会社	カテゴリ	残高 (百万円)	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドロウダウン (注1)	安定性 (注2)
日興UBS中国A株ファンド	UBS	エマージング株式	3,290	36.53%	32.41%	1.13	-19.20%	58%
JPMジャパン・テクノロジー・ファンド	JPモルガン	国内株式	2,866	35.55%	20.99%	1.69	-9.63%	67%
中国プラスA株ファンド	BNPパリバ	エマージング株式	539	29.86%	38.40%	0.78	-18.53%	58%
日興フォルティス中国A株ファンド	BNPパリバ	エマージング株式	3,438	28.56%	39.35%	0.73	-27.51%	58%
野村新中国株投資	野村	エマージング株式	4,650	28.12%	34.70%	0.81	-18.19%	72%
新成長株ファンド	明治安田	国内株式	11,713	26.66%	13.02%	2.05	-4.54%	72%
DIAM新興市場日本株ファンド	AM-One	国内株式	12,700	26.64%	20.49%	1.30	-9.76%	69%
中小型成長株ファンドーネクストジャパン	SBI	国内株式	6,022	26.13%	13.24%	1.97	-5.40%	72%
SBI中小型割安成長株ファンド	SBI	国内株式	7,327	25.31%	14.70%	1.72	-9.02%	75%
フォルティス中国環境関連株式投信	BNPパリバ	エマージング株式	2,349	25.04%	41.57%	0.60	-19.84%	58%

(注1) 下落幅が最も大きかった月の収益率。

(注2) 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

ベストテンは国内株式型とエマージング株式型が半々となりました。国内株式はすべて成長株を主要投資対象とするタイプで、エマージング株式型はすべて中国株ファンドであり、傾向は明らかとなっています。

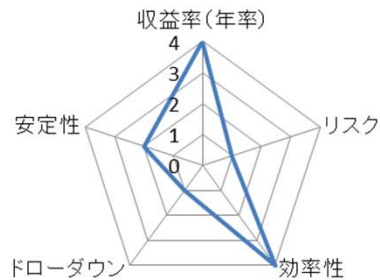
収益率に大きな差はありませんが、リスクには明確な差があります。中国株ファンドのリスクは国内株式ファンドの2倍前後、つまり直近1年間(2016年度)と同様、国内株式に比較してもハイリスク・ハイリターンであると言えます。当然、効率性では大きな差がついています。

直近1年間(2016年度)でトップだった「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」はここでも2位に食い込んでいます。直近1年間で2位だったフォルティス中国環境関連株式投信もかろうじてベストテンに食い込みました。

■ファンドランキング:中期(直近3年間)(2)

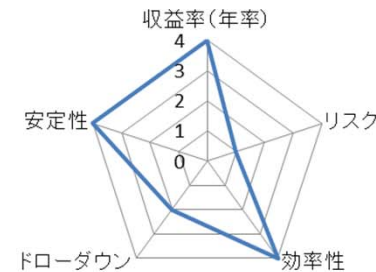
2016年度(直近1年間)と同様、直近3年間についても、レーダーチャートを使ってバランスを確認します。
中国株ファンドはトップの「日興UBS中国A株ファンド」と直近1年に続いてのトップテン入りとなった「フォルティス中国環境関連株式投信」を、国内株式は直近1年に続いて上位に食い込んだ「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」と、国内株式で2番目のパフォーマンスを出した「新成長株ファンド」を、それぞれ抽出・比較しました。

日興UBS中国A株ファンド



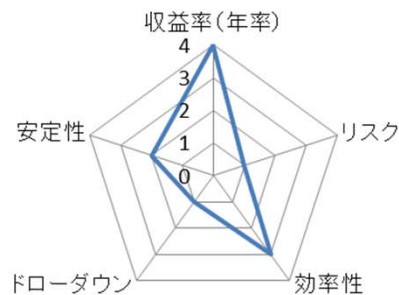
【中国株式ファンド】
収益率が高いので、大きなリスクを取ってもなお効率性は高い部類に入りますが、ドロウダウンが大きく、安定性にも欠けます。荒い値動きを続けた結果の高収益であり、バランスの良いファンドとは言えません。新興国らしいハイリスク・ハイリターンの結果を残した3年間だったと言えるでしょう。

JPMジャパン・テクノロジー・ファンド

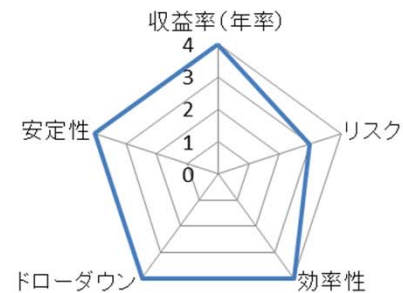


【国内株式ファンド】
「JPMジャパン・テクノロジー・ファンド」はドロウダウンが悪化したことで直近1年間よりもバランスが悪くなっています。「新成長株ファンド」は、リスクはやや高いものの、他の項目がいずれも上位1/4にあり、高い収益をあげつつも、相対的にバランスがとれていたファンドだったと言えるでしょう。

フォルティス中国環境関連株式投信



新成長株ファンド



■ファンドランキング:長期(直近5年間)(1)

ひとつの投信をどの程度の期間保有するかは、投資家の考え方や、投信の商品性により様々ですが、一般的に3年から5年と言われています。ここでは、直近5年間での個別ファンドの収益率ベストテンを抽出しました。他の期間と同様に、計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信等を除いた1,805本で比較しています。

ファンド名	運用会社	カテゴリ	残高 (百万円)	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドロウダウン (注1)	安定性 (注2)
DIAM新興市場日本株ファンド	AM-One	国内株式	12,700	42.01%	26.97%	1.56	-11.40%	65%
証券ジャパン日本株オープン	AM-One	国内株式	1,253	35.13%	33.32%	1.05	-13.97%	65%
日本新興株オープン	日興	国内株式	9,353	34.16%	24.67%	1.38	-10.90%	68%
SBI中小型割安成長株ファンド	SBI	国内株式	7,327	32.75%	17.09%	1.92	-9.02%	75%
日興中小型グロースファンド	日興	国内株式	11,138	30.63%	21.91%	1.40	-11.14%	70%
大和住銀日本小型株ファンド	大和住銀	国内株式	14,276	29.78%	16.83%	1.77	-7.69%	73%
SBI小型成長株ファンド(ジェイクール)	SBI	国内株式	5,349	29.20%	27.08%	1.08	-11.65%	63%
中小型成長株ファンドーネクストジャパン	SBI	国内株式	6,022	28.83%	16.59%	1.74	-12.17%	73%
MHAM新興成長株オープン	AM-One	国内株式	5,974	28.65%	19.70%	1.45	-11.53%	65%
新成長株ファンド	明治安田	国内株式	11,713	28.51%	16.55%	1.72	-12.19%	73%

(注1)下落幅が最も大きかった月の収益率。

(注2)月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

ベストテンはすべて国内株式型となりました。第2位の「証券ジャパン 日本株オープン」を除く9ファンドが中小型成長株を主要投資対象とするものでしたが、このファンドも直近の組み入れ比率上位には中小型成長株が多く、実質的には、ベストテンすべてが同種のファンドと言えます。25位まで拡大しても、エマージング株式1本を除く24本が国内株式を主要投資対象とするファンドでした。

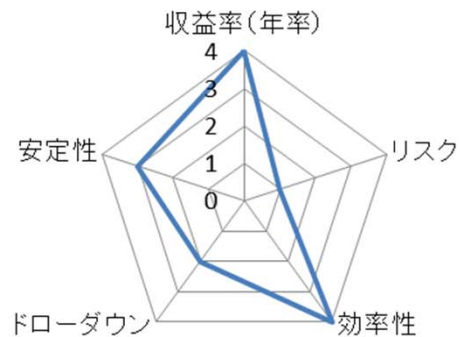
収益率・リスクともにファンドごとにある程度の差はありますが、際立った特徴を有するファンドはありません。日本の中小型成長株投資というコンセプトが、直近5年間では最も高い収益をあげた、と言えるでしょう。

■ファンドランキング:長期(直近5年間)(2)

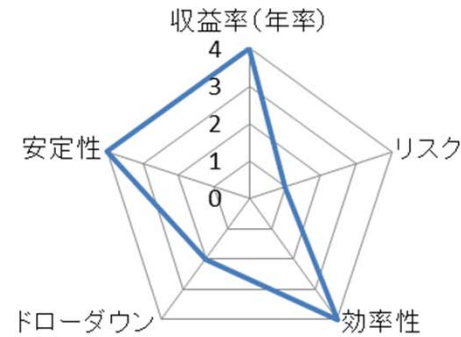
直近5年間についても、レーダーチャートを使ってバランスを確認します。

トップテンがすべて国内の中小型成長株を主要投資対象とする類似ファンドであることから、上位3ファンドのレーダーチャートは似通った形となっています。どのファンドもハイリスク・ハイリターンで効率性も高いが、ドロウダウン等まで含めたバランスは悪く、かなり偏ったファンド群と言えます。

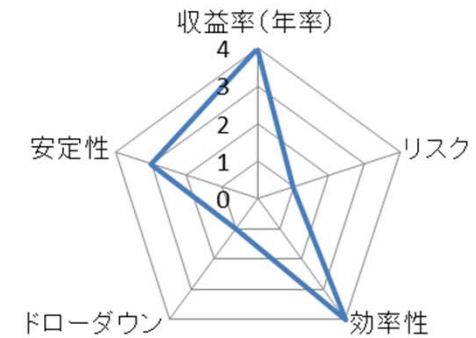
D I A M新興市場日本株ファンド



日本新興株オープン



証券ジャパン日本株オープン



■資産カテゴリ別ランキング(1)

個別ファンドで見るベストテンには、はっきりとしたカテゴリーの偏りが見られました。特に直近5年間ではベストテンがすべてひとつのカテゴリになっています。個別ファンドだけを見ても市場全体の動きを理解するのは難しいので、ここでは直近5年間についてカテゴリごとの収益率、リスク、効率性、ドローダウン、安定性を比較します。他のデータと同じく、計測期間の最初の月末の純資産残高が10億円以上の公募の追加型投信で、ETF、DC専用、SMA専用、限定追加型、公社債投信等を除いて比較しています。

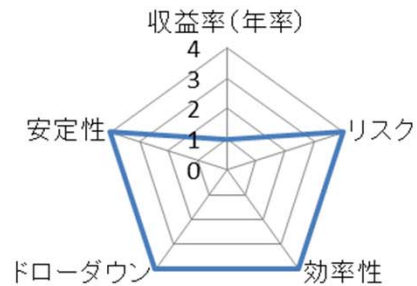
カテゴリ	収益率 (年率)	リスク	効率性	ドローダウン (注1)	安定性 (注2)
J-REIT	16.64%	19.65%	0.86	-13.65%	60.2%
国内株式	15.31%	18.29%	0.84	-11.13%	62.0%
外国株式	12.07%	17.67%	0.73	-12.21%	64.4%
グローバルREIT	11.82%	16.16%	0.75	-9.26%	61.0%
複合資産	8.36%	9.57%	0.93	-6.25%	65.3%
エマージング株式	8.15%	21.31%	0.41	-15.16%	60.0%
ハイイールド債券	7.90%	11.94%	0.75	-8.34%	63.5%
エマージング債券	5.44%	13.96%	0.44	-10.48%	60.5%
外国債券	4.76%	9.50%	0.53	-6.63%	60.0%
その他	2.75%	16.37%	0.18	-9.92%	54.3%
国内債券	1.85%	1.88%	0.97	-1.32%	66.0%

(注1) 下落幅が最も大きかった月の収益率。

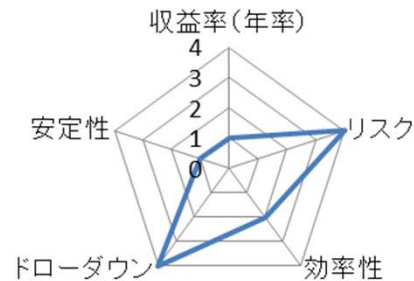
(注2) 月次収益率がプラスだった月が全期間の月数に占める割合。

■資産カテゴリ別ランキング(2)

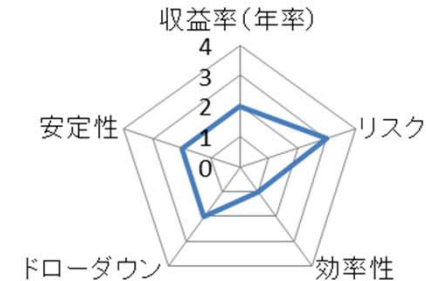
国内債券



外国債券



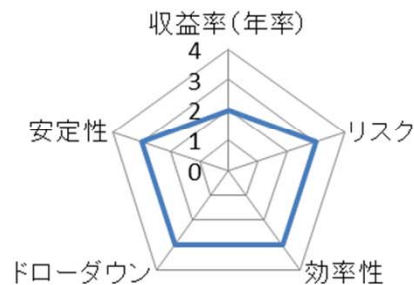
エマージング債券



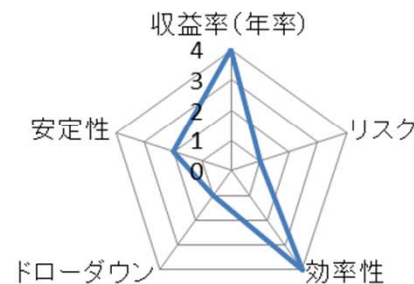
国内債券型はバランスは抜群ですが、肝心の収益率が下位1/4以下です。日銀がゼロ金利政策を続ける中で変動率も低く、低収益となりました。外国債券型は、欧州ではゼロ金利継続、米国は利上げに方向転換した中で、収益性、安定性ともに悪いが、大きな下振れはあまり起こらなかったと言えます。

世界的に金利が低下する中で、イールドハンティングの対象として、ハイイールド債券、エマージング債券、J-REIT、グローバルREITが選好されましたが、J-REIT以外は収益率、効率性とも低く、結果的にさほど魅力的なカテゴリではなかったと言えるでしょう。

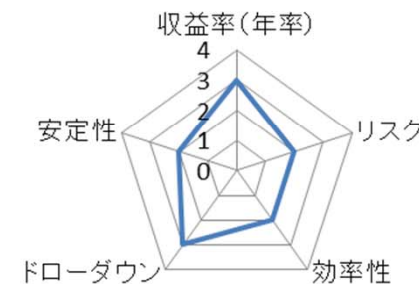
ハイイールド債券



J-REIT

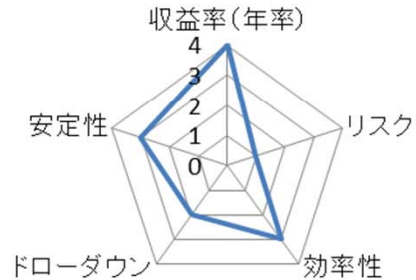


グローバルREIT

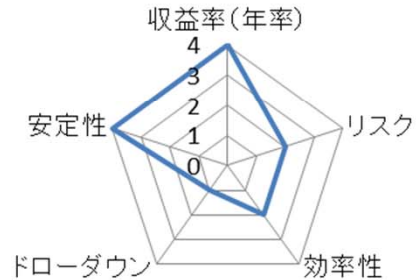


■資産カテゴリ別ランキング(3)

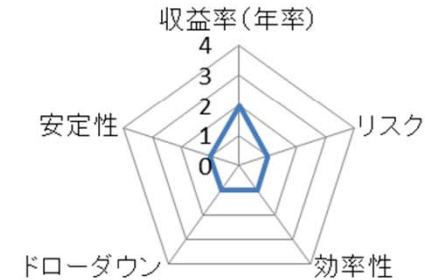
国内株式



外国株式



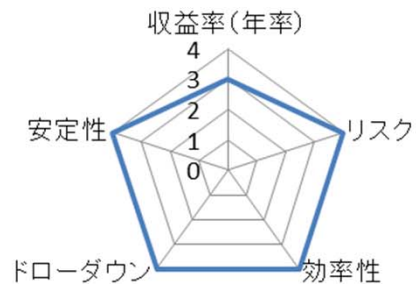
エマージング株式



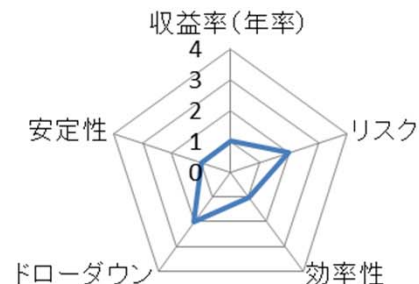
国内株式、外国株式ともに収益率は高かったものの、効率性は必ずしも高いとは言えず、ドローダウンも含めたリスクの高さが目立ちます。一方でエマージング株式は収益率は下位半分、それ以外の項目はすべて下位1/4以下となり、ハイリスク・ローリターンで安定性にも欠けていたことがわかります。

対照的なのが複合資産で、収益率は上位1/4に入らなかったものの、その他のすべての項目が上位1/4に入りました。リスクを分散するという複合資産の強みが発揮された、バランスのとれた結果となりました。「その他」はCBやレバレッジをかけたファンドで、全項目で低調でした。

複合資産



その他



- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- MAB投信指数「MAB300」(以下、本指数)に関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。また、本指数を商業的に利用する場合にはMABの利用許諾が必要です。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリストグループ

標(しめぎ)・佐藤・勝盛・大野

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

TEL:03-6721-1010 FAX:03-6721-1020

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会